

変革期を迎えた 透析栄養管理の最新情報

特集にあたって

透析医療はいま、大きな転換点を迎えています。高齢化や併存疾患の複雑化、生活の質(QOL)を重視した医療へのシフトなど、患者を取り巻く環境はかつてないほど多様化しています。栄養は、透析治療の基盤でありながら、従来の制限中心のアプローチでは、患者の生活や身体機能の維持に十分応えられない場面が増えてきました。いまこそ、この変革の中にある透析栄養管理の最新情報を多角的に整理し、これからの実践に求められる視点と課題を明らかにする必要があります。

本特集では、まず透析医療の現状と栄養管理の課題を整理したのち、治療過程で生じるタンパク・アミノ酸漏出の実態を踏まえたうえで、エネルギーおよびたんぱく質摂取の新たな考え方を解説していただきます。さらに、従来の「制限」から「適正管理」へと大きく舵を切りつつあるカリウム・リン管理の最新動向を取り上げ、透析リハビリテーションと栄養の連携がもたらす身体機能改善の可能性を探ります。また、近年注目される腸内環境と透析患者の食事の関係、そしてSDMやCKMについて患者一人ひとりの価値観に寄り添う栄養支援のあり方を考えたいと思います。コラムでは、プレコンセプションケアの視点を含めた妊娠期患者の対応について触れています。透析栄養管理は、単なる食事指導ではなく、患者の人生を支える包括的な医療の一部です。本特集が、明日の臨床に新たな視点と実践のヒントをもたらす機会となれば幸いです。

東京医療保健大学 医療保健学部 医療保健学科管理栄養学専攻

北島幸枝